

## コリント人への手紙第一 7:6-16 結婚と離婚

先週は6章を終わり、7章に入りました。ですが、実際にはコリント人への手紙第一で7章は新しいセクションのはじまりです。パウロはこの章を6章で語った不道德に関する結論と結び付ける形で記しましたが、実際のところ7章では新たなトピックが取り上げられています。7章の最初の5節については、先週6章と関連付けてお話ししたので、今日は省略します。ただ、この新しいセクションの導入として、最初の節だけ見ておきたいと思います。1節には「あなたがたが書いてきたことについてですが」とあります。コリントの人々が意見を求めて送った一連の質問に、パウロがこれから答えようとしているのだということが明らかです。その最初の質問は、結婚に関するものであったようです。先週見ましたように、不道德な行為への誘惑に対する解決策としてパウロは結婚を勧めており、夫と妻が体を通して互いに仕え合うようにと言いました。今日は6節から先を見ていきたいとおもいます。そこにはこうあります。「6 以上は譲歩として言っているのであって、命令ではありません。7 私が願うのは、すべての人が私のように独身であることです。しかし、一人ひとり神から与えられた自分の賜物があるので、人それぞれの生き方があります。8 結婚していない人とやもめに言います。私のようにしていただけるなら、それが良いのです。9 しかし、自制することができないなら、結婚しなさい。欲情に燃えるより、結婚するほうがよいからです。」

6-9節は結婚に対するパウロの考えを要約したものです。ここに使徒パウロ自身の個性も見ることが出来ます。全て聖書は神の靈感の下に与えられたものです。それは、その全ての言葉、全ての教えが神ご自身の啓示されたもので、絶対的な真理だということです。けれど、それを書き記したのはロボットではなく、そこには筆者の人格や教育、そしてこの場合は夫婦関係までも読み取ることが出来ます。パウロが7節で「すべての人が私のようにあることです」と言っているのはどういう意味かについて、何世紀にもわたって議論されてきました。ESV や他の多くの現代語訳では、彼が未婚の独身者であることを言っていると解釈しています。それが最も自然な読み方だと思います。パウロは独身男性としての立場から、正直に、独り身で家庭に対する責任を持たない方が良いと考えているわけです。ですが、誰もがそのような生き方が出来る訳でも、またそうすべきでもありません。結婚が与えられている理由の一つは、欲望に左右されない純粋な生き方によって神に栄光を帰すことができるからです。

コリントの人たちが質問の一部は、そもそも結婚をするべきか否かということだったようですが、パウロの答えはイエスでした。ただ、結婚をすべきだという命令ではないし、独身でいることは良いことだとすぐに付け加えています。また、質問の内容は今現在結婚している人たちにも関することで、結婚している人は離婚することを許されているかということでもありました。10-11節を読みましょう。「10 すでに結婚した人たちに命じます。命じるのは私ではなく主です。妻は夫と別れてはいけません。11 もし別れたのなら、再婚せずにいるか、夫と和解するか、どちらかにしなさい。また、夫は妻と離婚してはいけません。」既に自分と同じように独身であることを正直に進めていることから、パウロの人柄を伺うことが出来ました。だからこそパウロは、これから言うことは単に自分の意見ではないということをはっきりさせたかったようです。そこで、彼は「命じるのは私ではなく主です。」と言っています。離婚について語っていることは、彼の思いではなく神の見解だということです。離婚に対するパウロの教えと神の見解の要点は、クリスチャンは夫であれ妻であれ、配偶者から別居したり離婚したりしてはいけないということです。もし別居中であったり離婚に向かっている、もしくは離婚して独身であるなら、和解を求めなくてはなりません。

これは新しい教えではありません。聖書全体を通して、離婚に対する神の見解は明確です。聖書の中で離婚について最初に言及されているのは、申命記 24:1 節です。そこにはこうあります。「人が妻をめぐり夫となった後で、もし、妻に何か恥ずべきことを見つけたために気に入らなくなり、離縁状を書いてその女の手に渡し、彼女を家から去らせ」神がイスラエルにおいて離婚を認めていることを示すものであることに違いありませんが、実際の所は、この定めは当時の社会

においてそのような離婚をする権利がなかった女性を保護するものでした。特別な理由と法的手続きが必要でしたが、女性が再婚できる自由を与えるものであったことが、申命記 24 章の残りの部分で示されています。この箇所には解釈が難しい点が多くありますが、はっきりしているのはマタイの福音書 19:8 でイエスが述べていることです。「8 イエスは彼らに言われた。「モーセは、あなたがたの心が頑ななので、あなたがたに妻を離縁することを許したのです。しかし、はじめの時からそうだったではありません。9 あなたがたに言います。だれでも、淫らな行い以外の理由で自分の妻を離縁し、別の女を妻とする者は、姦淫を犯すことになるのです。」つまり、聖書には離婚できる理由として少なくとも一つはあり、それが配偶者の姦淫であるということです。またパウロは次の節で、育児放棄も離婚の原因となることを示していると思います。虐待も決して許されることではなく、変化と和解が目的であったとしても、虐待が離婚の原因となり得ることは聖書の中で支持されています。

旧約聖書を読み進めると、マラキ書 2:16 に離婚についての神の見解をもう一つ見つけることができます。「妻を憎んで離婚するなら、——イスラエルの神、主は言われる——暴虐がその者の衣をおおう。——万軍の主は言われる。」あなたがたは自分の霊に注意せよ。裏切ってはならない。」この箇所の日本語訳は、男が妻を憎んで離婚するなら、となっており、この箇所の強いニュアンスを英語よりも正確に伝えています。ごく限られた範囲で神が離婚を認められることは既にお話しましたが、ここに述べられているのは、明らかにただ結婚生活を終わらせたいというだけの理由で離婚を望む男のことです。ですから、やや不明瞭な点がありますが、神は基本的には妻と離婚する男は、妻に対する愛がなく、憎しみを持って行動していると言っているわけです。そしてそうすることによって「暴虐がその者の衣をおおう」ようになるということです。つまり、そうすることによって妻に暴虐を振るうだけに留まらず、それが彼の人生を特徴づけ、彼がその罪を誇りに思うようになるということです。それは、聖書的な理由がなく離婚することの深刻さを示すもので、完全に否定的であることが明らかです。

離婚について一般的なことを述べた後、パウロは未信者と結婚している信者の状況に目を向けます。配偶者の片方がキリストを受け入れ、もう片方が受け入れていない場合に起こる、現在も良く起こる問題です。それは、最初の世代のキリスト教会にも共通する問題でした。12-16 節を読みましょう。「12 そのほかの人々に言います。これを言うのは主ではなく私です。信者である夫に信者でない妻がいて、その妻が一緒にいることを承知している場合は、離婚してはいけません。13 また、女の人に信者でない夫がいて、その夫と一緒にいることを承知している場合は、離婚してはいけません。14 なぜなら、信者でない夫は妻によって聖なるものとされており、また、信者でない妻も信者である夫によって聖なるものとされているからです。そうでなかったら、あなたがたの子どもは汚れていることになりませんが、実際には聖なるものです。15 しかし、信者でないほうの者が離れて行くな、離れて行かせなさい。そのような場合には、信者である夫あるいは妻は、縛られることはありません。神は、平和を得させようとして、あなたがたを召されたのです。16 妻よ。あなたが夫を救えるかどうか、どうして分かりますか。また、夫よ。あなたが妻を救えるかどうか、どうして分かりますか。」明らかに、私たちは結婚生活を守ることを第一に考えるべきで、離婚は最後の手段であるべきなのです。さて、皆さんの中には、まさにパウロがここで述べているような立場に置かれている方も多くおられると思います。あなたはキリストに従う者で、あなたの夫や妻はそうではない。そうしたことは、様々な理由で起こります。けれど、みなさんがどのような理由で今の結婚に至ったとしても、その結婚に可能な限り留まることが神の御心なのです。

けれど、パウロはこの問題についての神の御心をただ伝えるだけにとどまりません。なぜ神が結婚生活を守ることを望まれるのかも示してくれています。ただ、そのことを説明している箇所は誤解されやすいかと思えます。14 節に「なぜなら、信者でない夫は妻によって聖なるものとされており、また、信者でない妻も信者である夫によって聖なるものとされているからです。そうでなかったら、あなたがたの子どもは汚れていることになりませんが、実際には聖なるものです。」

とあります。この箇所を、信じる配偶者がいれば、家族全員が救われるのだと解釈することはできません。では、どのような意味なのでしょう。最も明らかなのは、その人の配偶者と子ども達がキリストに従うようになる可能性が高いということです。今日ここにおられる方の中にも、皆さんがキリストの元に来られる前に何年もの間キリストの愛の模範を示してくれた敬虔な配偶者がおられたから、イエス・キリストに従う者となったという方々がおられます。また、イエス・キリストの模範を示してくれたお父さんやお母さんの存在があったという方々もおられます。使徒パウロはペテロの手紙第一 3:1 で同様の指示を与えています。「同じように、妻たちよ、自分の夫に従いなさい。たとえ、みことばに従わない夫であっても、妻の無言のふるまいによって神のものとされるためです。」ただ、パウロは、単に親交のある妻や母の証しによってキリストを見出すことができるということだけでなく、より多くの事を語っているように思います。イエス・キリストを個人的に受け入れることを通してのみ、救いを見出すことができます。ですが、配偶者や子どもなど、信者と共に多くの時間を過ごす人々は、信者の生活の中に聖霊がおられることを間接的に体験します。目の前に、日々、キリストに従う生き方を見ることで恩恵を受けているのです。けれど、私たち信者がマタイの福音書 5:16 にあるような生き方を本当にしている時だけ、そのような恩恵を得られるのだということを忘れないでください。「このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせなさい。人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようになるためです。」

残念ながらすべての結婚が幸せであるわけではありませんし、未信者が常に信者の配偶者の元に留まると思っているほどパウロが世間知らずな訳ではありません。一方が他方を捨てて結婚を放棄してしまう場合は、離婚を認めなさいとパウロは言っています。既に明らかかと思いますが、それは神の理想の姿ではありません。ですが、神は人間の罪が結婚に影響を与え、時には離婚という望ましくないけれども避けられない結末をもたらすことを許しておられるのです。ですから、私たちの離婚に対する態度は、世の大半の人が言うように、どのような理由であっても、いつでも離婚することができるというものであってはなりません。クリスチャンが離婚することは常に罪であるというものであってはなりません。

では、クリスチャンは結婚生活に関する問題にどのように対処すれば良いのでしょうか。離婚は悲しい結末かも知れませんが、可能な限り和解を求めることが神の御心であることは明らかです。カウンセリングの助けを得ることをためらわないで下さい。これまでに、従軍牧師として、また牧師として、コミュニケーションの欠如、互いへの怒り、長期間に及ぶ別居生活、ポルノ、不倫といった問題を乗り越え、結婚生活が癒され修復されるのを見てきました。ですがそれには、通常は第三者の助けが必要です。クリスチャンにとって、結婚生活の問題に聖書を適用することを助けてくれる牧師やカウンセラーからの助言を得ることは、結婚生活で生じる問題に対処するための最良の方法です。夫や妻、相互の満足、無私の愛や赦しに関する聖書の原則を、皆さんの人生において最も大切な関係に適用することは、キリストに従う者として、また人間関係において、皆さんが霊的に成長する助けとなります。

まだ結婚されてない方は、最終的に誰と結婚するかについてコリント人への手紙第二 6:14 が基準となるべきです。「不信者と、つり合わないくびきをともしてはいけません。正義と不法に何の関わりがあるでしょう。光と闇に何の交わりがあるでしょう。」これは、パウロが7章 39 節で未亡人に対して言っていることと同じことです。「妻は、夫が活着ている間は夫に縛られています。しかし、夫が死んだら、自分が願う人と結婚する自由があります。ただし、主にある結婚に限ります。」パウロが「主にある結婚に限ります」と言っていることに注目して下さい。明確なのは、独身の人は信者の人と結婚することを目指すべきであるということです。それが素晴らしい結婚を保証するわけではありませんが、素晴らしい結婚に向けて努力するための確固たる土台を与えてくれます。

聖書や神の人間に対するご計画において、信者の結婚がこれほどまでに重要視されるのはなぜでしょうか。エペソ人への手紙 5:31-33 はこのように言っています。「31 「それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである。」 32 この奥義は偉大です。私は、キリストと教会を指して言っているのです。 33 それはそれとして、あなたがたもそれぞれ、自分の妻を自分と同じように愛しなさい。妻もまた、自分の夫を敬いなさい。」神が結婚を重要視される理由が、まさにこの箇所にあります。私たちの結婚は、神が教会、つまりご自分の民を贖うためにキリストを世に送られたことを、その神の愛を、目に見える形で示すものです。また、その教会に対する神の大きな愛の中に、結婚だけでなく、私たちの人生のあらゆる部分に必要なものを見ます。私たちには神の恵みが必要なのです。私たちの人生は、今日の多くの結婚生活が反映するように、生まれながらにして罪の影響を受けたものです。ローマ人への手紙 3:23 は「すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができ」ないと言っています。

その罪に対する唯一の答えが、神の御子イエス・キリストの内に示される神の恵みです。神が救うことができないほど罪深く壊れた人生などあり得ません。ヘブル人への手紙 7:25 はイエスについてこう言っています。「したがってイエスは、いつも生きていて、彼らのためにとりなしをしておられるので、ご自分によって神に近づく人々を完全に救うことができになります。」そして、神の恵みの及ばない人がいないのと同じく、神の恵みの及ばない結婚もあり得ません。今あなたの結婚生活がどのようなものであっても、神の助けにより違ったものになり得ますし、あなたの配偶者に対する態度も違ったものとなり得るのです。神が望まれる夫や妻となれるよう神の助けを求め、聖霊の助けによって、キリストの教会に対する愛を世に示すような結婚生活を目指してください。

主の晩餐に与るたび、私たちはその愛と恵みを覚え、また靈的に体験します。パンを食べることで私たちのために砕かれた主の体を覚え、ジュースを飲むことで私たち一人一人のために十字架で流された血を覚えます。イエス・キリストを救い主として受け入れ、洗礼を受けられた方は、どうぞ共にこの聖餐式に与ってください。まだイエスを救い主としてご存知ない方、洗礼を受けておられない方は参加をお控えくださいますようお願い致します。お子さんがおられる方は、準備が出来ていないお子さんを聖餐式に与らせないことが、その大切さを教えるのに一番の方法です。私が祈りました後、執事が個包装されたパンとジュースを礼拝堂の四隅でお配り致します。その後、共に晩餐に与ります。祈りましょう。

## 1 Corinthians 7:6-16 Marriage and Divorce

Last week we introduced Chapter 7 as we finished chapter 6. Chapter 7 really begins a new section though, in the book of first Corinthians. Paul used it to connect with his final thoughts regarding immorality in chapter 6 but there is actually a new topic introduced in Chapter 7. Now we're going to skip the first 5 versus of first Corinthians 7 because I covered them last week in our discussion with chapter 6. But I do want to start with the first verse and how he introduces this new section. Verse 1 says, **7 Now for the matters you wrote about:** He's very clear in that what he's going to do now is answer a series of questions that the Corinthians have apparently sent to him to get his input on. Now the very first question that it seems they sent to him involved marriage. As we looked at last week, he commends marriage as a solution for temptation to immoral behavior, and tells husbands and wives to submit to serving each other even with their bodies. Today let's pick up at starting at verse 6 where he says, **6 I say this as a concession, not as a command. 7 I wish that all of you were as I am. But each of you has your own gift from God; one has this gift, another has that. 8 Now to the unmarried and the widows I say: It is good for them to stay unmarried, as I do. 9 But if they cannot control themselves, they should marry, for it is better to marry than to burn with passion.** Let's pray.

Verses 6-9 are a summary of his thoughts on marriage. In this you can see the Apostle's Paul own personality come through. All of the Bible is given under the inspiration of God's Holy Spirit, meaning that every word and every teaching is absolute truth as the revelation of God himself. But rather than the human writers being robots, we are reading their personalities, their education and in this case even their marriage relationship into the passage. There has been some discussion over the centuries regarding what Paul means in verse 7 when he says, **"I wish that all of you were as I am."** The ESV here along with most other modern translations is taking the interpretive liberty to say that he is speaking about being a never married bachelor. This does seem to be the most natural way to read it. Paul is being honest, in his perspective as a single man, it seems better to be single and not have the responsibility of a family. But not everyone can or should live this way, and one reason marriage is given is so we can glorify God by living pure lives not characterized by lust.

It seems like at least part of the question the Corinthians had was whether they should get married at all, and Paul's answer is, yes. Although, he is quick to say, it's not a command that you have to marry, and it is good to remain single. But their question also involved those who are currently married and whether it was permitted to divorce once married. Let's read verses 10-11 **10 To the married I give this charge (not I, but the Lord): the wife should not separate from her husband 11 (but if she does, she should remain unmarried or else be reconciled to her husband), and the husband should not divorce his wife.** We have already seen a lot of Paul's personality in these verses as he is honest in recommending his singleness to others, so he wants to make very clear that what is going to say is not just an opinion he has. So, he says, **I give this charge (not I, but the Lord).** What he is saying about divorce is God's views on it. The bottom line to Paul's teaching and God's view on divorce is that a Christian should not separate from or divorce their spouse whether husband or wife. If they are currently separated and headed to divorce or divorced and single, they should seek reconciliation.

This is not new teaching. God's view on divorce is clear throughout the scripture. The first mention we have of divorce in the Bible is [Deuteronomy 24:1](#), "When a man takes a

wife and marries her, if then she finds no favor in his eyes because he has found some indecency in her, and he writes her a certificate of divorce and puts it in her hand and sends her out of his house, and she departs out of his house... Of course this obviously shows that God is allowing for some reason for divorce in the nation of Israel, but it is actually providing protection for a woman who had no right to that same divorce in society of that time. There had to be a specific reason, and a legal process followed, so that she could be free to remarry which the rest of the passage in Deuteronomy 24 addresses. That passage has a lot of difficult interpretation issues in it, but what is clear is that Jesus says in [Matthew 19:8](#) 8 He said to them, “Because of your hardness of heart Moses allowed you to divorce your wives, but from the beginning it was not so. 9 And I say to you: whoever divorces his wife, except for sexual immorality, and marries another, commits adultery.” So, there is at least one clear Biblical reason for divorce, and that is adultery on the part of your spouse. I believe Paul will show us in the next verses that abandonment is also a cause for divorce. Abuse should also never be tolerated, and even if the goal is change and reconciliation, there is Biblical support for abuse being a cause for divorce as well.

As we go forward in the Old Testament, we see another statement by God on divorce in [Malachi 2:16](#), 16 “For the man who does not love his wife but divorces her, says the Lord, the God of Israel, covers his garment with violence, says the Lord of hosts. So guard yourselves in your spirit, and do not be faithless.” The Japanese version in this verse actually picks up the stronger nuance than the English does when it says the man hates his wife and divorces her. We have already discussed the fact that God does allow for divorce in narrow circumstances, but this is clearly a man who is divorcing with no grounds other than he wants to be done with his marriage. So while the meaning is a little unclear here, basically God is saying that the man who divorces his wife is acting unloving and hateful towards her. By doing this, he is “[covering his garment with violence](#).” In other words he is not only committing violence towards his wife, it is characteristic of his life, and he takes pride in his sin. This is a pretty serious view of divorcing without a Biblical reason, and it is clearly viewed in a negative light all the way around.

After addressing divorce in general, Paul turns his attention to the specific situation of Christians married to non-Christians. This is a common issue that arises today when one spouse accepts Christ and the other has not. And it was a common problem in the first generation Christian church as well. Let’s read verses 12-16. [12 To the rest I say \(I, not the Lord\) that if any brother has a wife who is an unbeliever, and she consents to live with him, he should not divorce her. 13 If any woman has a husband who is an unbeliever, and he consents to live with her, she should not divorce him. // 14 For the unbelieving husband is made holy because of his wife, and the unbelieving wife is made holy because of her husband. Otherwise your children would be unclean, but as it is, they are holy. // 15 But if the unbelieving partner separates, let it be so. In such cases the brother or sister is not enslaved. God has called you to peace. 16 For how do you know, wife, whether you will save your husband? Or how do you know, husband, whether you will save your wife?](#) Clearly, our primary focus should be on preserving marriage and divorce should be a last resort. Now, I know that many of you find yourself in exactly the position that Paul is describing here. You are a follower of Christ, and your husband or wife is not. This happens for many different reasons. But no matter how you

find yourself in the marriage you are in, the marriage you are in is God's will for you to remain in if at all possible.

Paul goes beyond just giving us God's heart in this matter, though. He tells us why God would prioritize keeping the marriage together. But the verse that explains this could be easily misunderstood. Notice verse 14, **For the unbelieving husband is made holy because of his wife, and the unbelieving wife is made holy because of her husband. Otherwise your children would be unclean, but as it is, they are holy.** We can't interpret this to mean that a believing spouse automatically ensures the salvation of an entire family. So what does this mean? The most obvious is that there is a strong possibility that the spouse and children will come to follow Christ. Some of you in here today are followers of Jesus Christ because of Godly spouses who modeled Christ's love to you for years before you came to Christ. Some of you are children of a mom or dad who modeled Jesus Christ before you. The apostle Peter gives similar instructions in [1 Peter 3:1-3](#) **Likewise, wives, be subject to your own husbands, so that even if some do not obey the word, they may be won without a word by the conduct of their wives...** Paul seems to be saying a little bit more though, than just that they may find Christ through the testimony of a believing wife or mother. Salvation is only found through personal acceptance of Jesus Christ. However, it seems that those who spend a lot of time with a believer, like spouses and children, experience second hand the presence of the Holy Spirit in the life of a believer. They are benefitting from Christlikeness that is lived before them every day. But remember, they only receive the benefit when we as believers are truly living like [Matthew 5:16](#). **In the same way, let your light shine before others, so that they may see your good works and give glory to your Father who is in heaven.**

Unfortunately, not all marriages will have the happy ending, and Paul is not naive in his views that the non-Christian will always remain with the believer. In that case, where one spouse deserts the other and quits on the marriage, he says go ahead and permit the divorce to happen. If its not clear by now, this is not God's ideal, but God allows for human sin that affects marriages and sometimes makes divorce the undesired but inevitable outcome. So, our attitude towards divorce should not be that of much of the world that we can leave marriages anytime for any reason that we want; but neither should it be that a Christian is always in sin when divorce occurs.

So, how should a Christian approach problems in their marriage? Divorce might be the sad end result, but clearly God's will is that we should seek reconciliation if possible. Don't be afraid to seek counseling. As a Chaplain and a pastor, I have seen marriages healed and restored after lack of communication, anger on both sides, extended separation, pornography and even adultery. But it generally involves getting help from a third party. For a Christian, getting that counsel from a Pastor or a counselor who can help you apply the Bible to the problems in your marriage is the best way to approach the issues that will arise in our marriages. It will help you grow spiritually as a follower of Christ and relationally as you apply Biblical principles on husbands, wives, mutual satisfaction, selfless love and forgiveness to this most important relationship in your life.

If you're not married, the controlling factor in who you eventually marry should be [2Corinthians 6:14](#) **Do not be unequally yoked with unbelievers. For what partnership has righteousness with lawlessness? Or what fellowship has light with darkness?** This is the

same thing Paul says at the end of this passage regarding widows as he closes chapter 7 with verse 39. [A wife is bound to her husband as long as he lives. But if her husband dies, she is free to be married to whom she wishes, only in the Lord.](#) Notice he ends with... “[only in the Lord.](#)” Clearly, the goal for those who are single should be pursuing marriage with a fellow believer. It will not ensure a great marriage, but it helps to provide a solid foundation for working towards a great marriage.

Why is it that Christian marriage carries such an important place in the Scripture and in God’s design for humanity? [Ephesians 5:31-33](#) says, 31 “[Therefore a man shall leave his father and mother and hold fast to his wife, and the two shall become one flesh.](#)” 32 [This mystery is profound, and I am saying that it refers to Christ and the church.](#) 33 [However, let each one of you love his wife as himself, and let the wife see that she respects her husband.](#) The reason that God places such a high importance on marriage is right here in these verses. Our marriages are supposed to be a tangible picture to the world of the love that God has for his people in how he sent Christ to redeem his church, the people of God. And it is in that picture of God’s great love for his church that we see what we need not only for our marriages, but for every part of our life. We need God’s grace. Naturally from birth, our lives reflect the state of many marriages today – messed up by sin. [Romans 3:23](#) tells us that [All have sinned and fall short of the glory of God.](#)

The only answer for that sin is God’s grace that is shown to us in Jesus Christ, God the Son. There is no life that is too sinful and broken that God cannot save. [Hebrews 7:25](#) says about Jesus, [25Consequently, he is able to save to the uttermost \[or completely\] those who draw near to God through him, since he always lives to make intercession for them.](#) And, just like no person is beyond God’s grace today, no marriage is beyond God’s grace either. Whatever your marriage is like today, with God’s help it can be different or you can be different in your reactions to your spouse. Ask for God’s help today to be the husband or wife that he is calling you to be, and strive with the Holy Spirit’s help, for a marriage that shows the world the love that Christ has for His Church.

It is that love and grace that we remember, and we experience in spiritual way each time we participate in Communion or the Lord’s Supper. We eat bread that reminds us of our Lord’s broken body and drink juice that reminds us of the blood that was spilled for each of us on the cross. This morning, I invite anyone who has accepted Jesus Christ as their Savior and been obedient in baptism to join in this Communion meal. For those who do not know Jesus as their Savior or not been baptized, I would ask you to not participate. For parents, the best way to demonstrate to your children the importance of Communion is to not allow them to participate if they are not ready. After I pray the Deacons will serve the prepackaged elements from the 4 corners of the sanctuary. Then we will eat together and drink together. Let’s pray.